

4. 各報告書の詳細

分析結果報告書確認表示用の画面はA4用紙印刷を考慮し、小さめにレイアウトされています。

入力方法の共通的な部分は、前記の表3-4.1「各分析結果報告書の共通事項」として、「分析主担当者」、「分析主担当者の経験年数」、「分析主担当者の実績（年間の分析試料数）」、「分析（主）担当者以外の分析結果の確認」の入力方法を示しています。

また、以下に共通的な事項（注意点等）を示します。

○分析経験等

分析経験については、分析主担当者による分析経験について、該当するものを選択してください。

○分析条件等

適用している分析方法や分析機器等によっては、記入が不要な部分、記入が難しい部分等があると考えられますので、そのような場合には記入する必要はありません。

複数回測定（併行測定）では、1回目の分析条件を記入します。ただし、試料の指示値（吸光度等）等については、測定回数分を記入する場合があります。

○指示値

指示値としては、吸光度、ピーク高さ、ピーク面積等があり、内標準法ではその比（例えばピーク面積比）もあり、またそれらの比例値もあり、このように各種のものがあります。記入にあたっては、いずれの値も可能ですが、内標準法の場合は、対象物質及び内標準物質の比では無く、各々のピーク面積等をご記入下さい。

ただし、指示値の記入欄には、検量線の最高濃度、試料、空試験の3つ（3か所）あり、記入にあたっては3か所とも同じ種類（単位）のものとしてください。

○分析結果（数値の丸め方）

分析結果については、有効数字3桁としています。数値の丸め方はJIS Z 8401に従ってください。

分析結果は必須項目です。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件でエラーメッセージ（例えば、「分析結果・・・の検出下限値以上または検出下限値未満での検出下限値のいずれかは必須項目です。該当する値を入力して下さい。」）が表示され、確定できませんので、ご注意ください（前記3-9参照）。

○分析方法

分析方法も必須項目です。選択されていないとエラーメッセージが表示され、確定できませんので、ご注意ください（前記3-9参照）。

○報告書の確定

ホームページでは期限内に報告書の確定を必ず行ってください（「報告書一覧表」から確定したい「報告書」を選択して、「報告書確定」をクリックしてください）。「報告書確定解除」を行った場合も、修正等の後には必ず「報告書確定」を行ってください。詳細は、前記3-8を参照ください。

○アンケート

ホームページから分析結果報告書を作成する機関を対象とした「ホームページによる分

析結果報告書の作成方法に関するアンケート」及び調査参加機関を対象とした「環境測定分析統一精度管理調査に関するアンケート」を実施しますので、ご協力をお願いいたします。アンケートの記入方法は、後記4-8に示しています。

4-1 分析結果報告書 [1] カドミウム

模擬排水試料に関する分析結果報告書 [1] の入力方法の詳細を記します。

表4-1 模擬排水試料 (カドミウム) (分析結果報告書 [1])

<分析結果>	
分析結果	数値(半角)入力。測定回数3回の結果を記入。 単位: mg/L。試料1Lあたりのmgとして記入。 「分析を実施した」場合には、「検出下限値以上」又は「検出下限未満での検出下限の値」欄のうち該当する一方に記入。測定回数3回の結果を記入。
・分析結果(検出下限値以上) ・分析結果(検出下限値未満の場合: 検出下限値)	検出下限値以上では、JIS Z 8401によって数値を丸めて分析結果を有効数字3桁で記入。 検出下限値未満では、 <u>検出下限値を有効数字1桁</u> で記入。
(注)検出下限: 例えば、空試験を行ってそれらの測定値の標準偏差の3倍相当として求める。	分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果(検出下限値以上または検出下限未満での検出下限の値)は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。
3回の併行のために下記は1~3回で概略同様であり、1回目を記入する。ただし、試料の指示値については、3回分を記入する。	
<分析方法等>	
分析開始月日	コンボボックスより選択。
分析終了月日	コンボボックスより選択。
分析方法	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
配布試料を希釈した水	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
使用した水	コンボボックスより選択。
<前処理>	
試料量(分析用試料の分取量)	数値(半角)入力。単位: mL。
準備操作(前処理)	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
前処理後の溶液(定容量)量	数値(半角)入力。単位: mL。
<溶媒抽出等>	
準備操作(溶媒抽出等)	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
前処理後の溶液の分取量(溶媒抽出)	数値(半角)入力。単位: mL。
溶媒の種類	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
キレトの種類	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
抽出回数	数値(半角)入力。単位: 回。
溶媒の使用量(イオン交換樹脂カラム)	数値(半角)入力。単位: mL/回。
種類	具体的に記入。
(キレト樹脂を用いた固相抽出)	
樹脂 種類 1	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
種類 2	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
メーカー	具体的に記入。
型式	具体的に記入。
試料液のpH調節	数値(半角)入力。
試料液の流下 方法	コンボボックスより選択。
流速	数値(半角)入力。単位: mL/分。
溶出 種類	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
濃度	数値(半角)入力。単位: mol/mL。
量	数値(半角)入力。単位: mL/回。
回数	数値(半角)入力。単位: 回。

最終の定容量	数値(半角)入力。単位：mL。
最終溶液（試験溶液）の液性	コンボボックスより選択。（ ）は具体的に記入。
<原子吸光法>	
試験溶液の希釈 希釈倍率	数値(半角)入力。希釈しない場合は「1」。
電気加熱法 注入量	数値(半角)入力。単位：μL。
注入の方法	コンボボックスより選択。
原子化の方法	コンボボックスより選択。（ ）は具体的に記入。
モスファイアの添加	コンボボックスより選択。（ ）は具体的に記入。
原子吸光分析装置	
バックグラウンド補正	コンボボックスより選択。（ ）は具体的に記入。
測定波長	数値(半角)入力。単位：nm。
<ICP 発光分光分析法>	
ろ過等の操作	コンボボックスより選択。（ ）は具体的に記入。
試験溶液の希釈 希釈倍率	数値(半角)入力。希釈しない場合は「1」。
ICP 発光分光分析装置	
メーカー	コンボボックスより選択。（ ）は具体的に記入。
型式	（ ）は具体的に記入。
製造年（又は導入年）	コンボボックスより選択。（ ）は具体的に記入。
スペクトル干渉の低減又は補正	コンボボックスより選択。（ ）は具体的に記入。
発光部（光観測方式）	コンボボックスより選択。（ ）は具体的に記入。
分光部	コンボボックスより選択。
検出部	数値(半角)入力。単位：時間。
バックグラウンド補正	数値(半角)入力。単位：nm。
超音波ネブライザーの使用	コンボボックスより選択。
スプレーチャンバーの材質	コンボボックスより選択。（ ）は具体的に記入。
測定時間	数値(半角)入力。単位：時間。
測定波長	数値(半角)入力。単位：nm。
装置メモリー低減対策の実施状況	コンボボックスより選択。
（バックグラウンド低減対策）低減方法	コンボボックスより選択。（ ）は具体的に記入。
<ICP質量分析法>	
ろ過等の操作	コンボボックスより選択。（ ）は具体的に記入。
試験溶液の希釈倍率	数値(半角)入力。希釈しない場合は「1」。
ICP質量分析計 メーカー・型式	具体的に記入
型式	コンボボックスより選択。（ ）は具体的に記入。
製造年（又は導入年）	（ ）は具体的に記入。
	コンボボックスより選択。（ ）は具体的に記入。
スペクトル干渉の低減又は補正	
質量分析計	コンボボックスより選択。（ ）は具体的に記入。
コリジョン・リアクションセル	コンボボックスより選択。（ ）は具体的に記入。
補正式による補正	コンボボックスより選択。 補正式による補正を行った場合には、補正前と補正後の指示値について「イオンカウント値」等、数値（半角）入力。 コンボボックスより選択。「2. 行う」を選んだ場合には、具体的に記入。
その他	
超音波ネブライザーの使用	コンボボックスより選択。（ ）は具体的に記入。
積分時間（質量数毎）	コンボボックスより選択。
質量数	数値(半角)入力。単位：秒。 数値(半角)入力。
<検量線の作成等>	
定量方法 方法	コンボボックスより選択。
内標準法：内標準物質の種類	コンボボックスより選択。（ ）は具体的に記入。
検量線 作成点数	数値（半角）入力。整数。
作成範囲	数値（半角）入力。分析装置で測定する溶液中の濃度(mg/L)を記入。 「ゼロ(0)」は含めない。
最高濃度の指示値	数値（半角）入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ単位で記入。
試料の指示値	

対象物質 内標準物質 空試験の指示値 装置検出下限値 (IDL) IDLの算出方法 分析法検出下限値 (MDL) MDLの算出方法	数値 (半角) 入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。3回分を記入。 数値 (半角) 入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。3回分を記入。 数値 (半角) 入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。 数値 (半角) 入力。単位: mg/L。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 数値 (半角) 入力。単位: mg/L。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
試料の保存状況 保存状況 保存方法等 保存時間 保存温度	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 数値 (半角) 入力。単位: 時間。 数値 (半角) 入力。単位: °C。
分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	150 文字以内で簡潔に記入する。
計算式	150 文字以内で簡潔に記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記入する。

4-2 分析結果報告書 [2] 鉛

模擬排水試料に関する分析結果報告書 [2] の入力方法の詳細を記します。

表4-2 模擬排水試料 (鉛) (分析結果報告書 [2])

<分析結果>	
分析結果	数値 (半角) 入力。測定回数 3 回の結果を記入。 単位: mg/L。試料 1L あたりの mg として記入。 「分析を実施した」場合には、「検出下限値以上」又は「検出下限未満での検出下限の値」欄のうち該当する一方に記入。測定回数 3 回の結果を記入。
・分析結果 (検出下限値以上) ・分析結果 (検出下限値未満の場合: 検出下限値)	検出下限値以上では、JIS Z 8401 によって数値を丸めて分析結果を有効数字 3 桁で記入。 検出下限値未満では、 <u>検出下限値を有効数字 1 桁</u> で記入。
(注) 検出下限: 例えば、空試験を行ってそれらの測定値の標準偏差の 3 倍相当として求める。	分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果 (検出下限値以上または検出下限未満での検出下限の値) は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。
3 回の併行のために下記は 1 ~ 3 回で概略同様であり、1 回目を記入する。ただし、試料の指示値については、3 回分を記入する。	
<分析開始日等>	
分析開始月日	コンボボックスより選択。
分析終了月日	コンボボックスより選択。
<分析方法等>	
分析方法	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
配布試料を希釈した水	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
使用した水	コンボボックスより選択。
<前処理>	
試料量 (分析用試料の分取量)	数値 (半角) 入力。単位: mL。
準備操作 (前処理)	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
前処理後の溶液 (定容量) 量	数値 (半角) 入力。単位: mL。
<溶媒抽出等>	
準備操作 (溶媒抽出等)	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
前処理後の溶液の分取量	数値 (半角) 入力。単位: mL。

(溶媒抽出) 溶媒の種類 キレートの種類 抽出回数 溶媒の使用量 (イオン交換樹脂カラム) 種類 (キレート樹脂を用いた固相抽出) 樹脂 種類 1 種類 2 メーカー 型式 試料液のpH調節 試料液の流下 方法 流速 溶出 種類 濃度 量 回数 最終の定容量 最終溶液 (試験溶液) の液性	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 数値(半角)入力。単位：回。 数値(半角)入力。単位：mL/回。 具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 具体的に記入。 具体的に記入。 数値(半角)入力。 コンボボックスより選択。 数値(半角)入力。単位：mL/分。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 数値(半角)入力。単位：mol/mL。 数値(半角)入力。単位：mL/回。 数値(半角)入力。単位：回。 数値(半角)入力。単位：mL。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
＜原子吸光法＞	
試験溶液の希釈 希釈倍率 電気加熱法 注入量 注入の方法 原子化の方法 モーターファイアの添加 原子吸光分析装置 バックグラウンド補正 測定波長	数値(半角)入力。希釈しない場合は「1」。 数値(半角)入力。単位：μL。 コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 数値(半角)入力。単位：nm。
＜ICP 発光分光分析法＞	
ろ過等の操作 試験溶液の希釈 希釈倍率 ICP 発光分光分析装置 メーカー 型式 製造年 (又は導入年) スペクトル干渉の低減又は補正 発光部 (光観測方式) 分光部 検出部 バックグラウンド補正 超音波ネブライザーの使用 スプレーチャンバーの材質 測定時間 測定波長 装置メモリー低減対策の実施状況 (バックグラウンド低減対策) 低減方法	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 数値(半角)入力。希釈しない場合は「1」。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 ()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。 数値(半角)入力。単位：時間。 数値(半角)入力。単位：nm。 コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 数値(半角)入力。単位：時間。 数値(半角)入力。単位：nm。 コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
＜ICP質量分析法＞	
ろ過等の操作 試験溶液の希釈倍率 ICP質量分析装置 メーカー 型式 製造年 (又は導入年) スペクトル干渉の低減又は補正 質量分析計	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 数値(半角)入力。希釈しない場合は「1」。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 ()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。

<p>コリジョン・リアクションセル 補正式による補正</p> <p>その他 超音波ネブライザーの使用 積分時間（質量数毎） 質量数</p>	<p>コンボボックスより選択。 補正式による補正を行った場合には、補正前と補正後の指示値について「イオンカウント値」等、数値（半角）入力。 コンボボックスより選択。「2. 行う」を選んだ場合には、具体的に記入。 コンボボックスより選択。（ ）は具体的に記入。 コンボボックスより選択。 数値（半角）入力。単位：秒。 数値（半角）入力。</p>
<p><検量線の作成等></p>	
<p>定量方法 方法 内標準法：内標準物質の種類 検量線 作成点数 作成範囲 最高濃度の指示値 試料の指示値 対象物質 内標準物質 空試験の指示値 装置検出下限値（IDL） IDLの算出方法 分析法検出下限値（MDL） MDLの算出方法</p>	<p>コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。（ ）は具体的に記入。 数値（半角）入力。整数。 数値（半角）入力。分析装置で測定する溶液中の濃度（mg/L）を記入。「ゼロ（0）」は含めない。 数値（半角）入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ単位で記入。 数値（半角）入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。3回分を記入。 数値（半角）入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。3回分を記入。 数値（半角）入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。 数値（半角）入力。単位：mg/L。 コンボボックスより選択。（ ）は具体的に記入。 数値（半角）入力。単位：mg/L。 コンボボックスより選択。（ ）は具体的に記入。</p>
<p>試料の保存状況 保存状況 保存方法等 保存時間 保存温度</p>	<p>コンボボックスより選択。（ ）は具体的に記入。 数値（半角）入力。単位：時間。 数値（半角）入力。単位℃。</p>
<p>分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点</p>	<p>150文字以内で簡潔に記入する。</p>
<p>計算式</p>	<p>150文字以内で簡潔に記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記入する。</p>

4-3 分析結果報告書 [3] ヒ素

模擬排水試料に関する分析結果報告書 [3] の入力方法の詳細を記します。

表4-3 模擬排水試料 (ヒ素) (分析結果報告書 [3])

＜分析結果＞	
分析結果	数値 (半角) 入力。測定回数 3 回の結果を記入。 単位: mg/L。試料 1L あたりの mg として記入。 「分析を実施した」場合には、「検出下限値以上」又は「検出下限未満での検出下限の値」欄のうち該当する一方に記入。測定回数 3 回の結果を記入。
・分析結果 (検出下限値以上) ・分析結果 (検出下限値未満の場合: 検出下限値)	検出下限値以上では、JIS Z 8401 によって数値を丸めて分析結果を有効数字 3 桁で記入。 検出下限値未満では、 <u>検出下限値</u> を有効数字 1 桁で記入。
(注) 検出下限: 例えば、空試験を行ってそれらの測定値の標準偏差の 3 倍相当として求める。	分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果 (検出下限値以上または検出下限未満での検出下限の値) は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。
3 回の併行のために下記は 1~3 回で概略同様であり、1 回目を記入する。ただし、試料の指示値については、3 回分を記入する。	
＜分析開始日等＞	
分析開始月日	コンボボックスより選択。
分析終了月日	コンボボックスより選択。
＜分析方法等＞	
分析方法	コンボボックスより選択。() は具体的に記入。
配布試料を希釈した水	コンボボックスより選択。() は具体的に記入。
使用した水	コンボボックスより選択。
＜前処理＞	
試料量 (分析用試料の分取量)	数値 (半角) 入力。単位: mL。
準備操作 (前処理)	コンボボックスより選択。() は具体的に記入。
前処理 装置	コンボボックスより選択。
前処理後の溶液	数値 (半角) 入力。単位: mL。
＜水素化物の予備還元等＞	
前処理後の溶液の分取量	数値 (半角) 入力。単位: mL。
予備案源に用いた試薬	
塩酸	コンボボックスより選択。() は具体的に記入。
よう化カリウム溶液	コンボボックスより選択。() は具体的に記入。
アスコルビン酸	コンボボックスより選択。() は具体的に記入。
塩化スズ(II)溶液	コンボボックスより選択。() は具体的に記入。
その他の試薬	() は具体的に記入。
予備還元の時間	() は具体的に記入。
予備還元の温度	コンボボックスより選択。() は具体的に記入。
予備還元時 (後) の溶液 (定容量)	コンボボックスより選択。() は具体的に記入。
還元剤	
テトラヒドロホウ酸トリウム	コンボボックスより選択。() は具体的に記入。
亜鉛	コンボボックスより選択。() は具体的に記入。
その他	() は具体的に記入。
水素化物の導入方法 (連続式の場合)	コンボボックスより選択。() は具体的に記入。
ジエチルジチオカルバミド酸銀吸光度法	
試料量	() は具体的に記入。
測定波長	() は具体的に記入。
＜水素化物発生原子吸光法＞	
ろ過等の操作	コンボボックスより選択。() は具体的に記入。
試験溶液の希釈倍率	数値 (半角) 入力。希釈しない場合は「1」。
原子吸光分析装置	

水素化物の導入 バックグラウンド補正 測定波長	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 数値(半角)入力。単位：nm。
＜水素化物発生 ICP 発光分光分析法＞	
ろ過等の操作 試験溶液の希釈 希釈倍率 ICP 発光分光分析装置 メーカー 型式 製造年 (又は導入年) スペクトル干渉の低減又は補正 発光部 (光観測方式) 分光部 検出部 バックグラウンド補正 超音波ネブライザーの使用 スプレーチャンバーの材質 測定時間 測定波長 装置メモリー低減対策の実施状況 (バックグラウンド低減対策) 低減方法	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 数値(半角)入力。希釈しない場合は「1」。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 ()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。 数値(半角)入力。単位：時間。 数値(半角)入力。単位：nm。 コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 数値(半角)入力。単位：時間。 数値(半角)入力。単位：nm。 コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
＜ICP質量分析法＞	
ろ過等の操作 試験溶液の希釈倍率 ICP質量分析装置 メーカー 型式 製造年 (又は導入年) スペクトル干渉の低減又は補正 質量分析計 コリジョン・リアクションセル 補正式による補正 その他 超音波ネブライザーの使用 積分時間 (質量数毎) 質量数	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 数値(半角)入力。希釈しない場合は「1」。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 ()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。 補正式による補正を行った場合には、補正前と補正後の指示値について「イオンカウント値」等、数値 (半角) 入力。 コンボボックスより選択。「2. 行う」を選んだ場合には、具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。 数値(半角)入力。単位：秒。 数値(半角)入力。
＜検量線の作成等＞	
定量方法 方法 内標準法：内標準物質の種類 検量線 作成点数 作成範囲 最高濃度の指示値 試料の指示値 対象物質 内標準物質 空試験の指示値 装置検出下限値 (IDL) IDLの算出方法 分析法検出下限値 (MDL) MDLの算出方法	コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 数値 (半角) 入力。整数。 数値 (半角) 入力。分析装置で測定する溶液中の濃度(mg/L)を記入。 「ゼロ(0)」は含めない。 数値 (半角) 入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ単位で記入。 数値 (半角) 入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。3 回分を記入。 数値 (半角) 入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。3 回分を記入。 数値 (半角) 入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。 数値 (半角) 入力。単位：mg/L。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 数値 (半角) 入力。単位：mg/L。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。

試料の保存状況 保存状況 保存方法等 保存時間 保存温度	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 数値(半角)入力。単位:時間。 数値(半角)入力。単位:℃。
分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	150文字以内で簡潔に記入する。
計算式	150文字以内で簡潔に記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記入する。

4-4 分析結果報告書 [4] 鉄

模擬排水試料に関する分析結果報告書 [4] の入力方法の詳細を記します。

表4-4 模擬排水試料(鉄)(分析結果報告書 [4])

<分析結果>	
分析結果	数値(半角)入力。測定回数3回の結果を記入。 単位:mg/L。試料1Lあたりのmgとして記入。 「分析を実施した」場合には、「検出下限値以上」又は「検出下限未満での検出下限の値」欄のうち該当する一方に記入。測定回数3回の結果を記入。
・分析結果(検出下限値以上) ・分析結果(検出下限値未満の場合:検出下限値)	検出下限値以上では、JIS Z 8401によって数値を丸めて分析結果を有効数字3桁で記入。 検出下限値未満では、 <u>検出下限値</u> を有効数字1桁で記入。
(注)検出下限:例えば、空試験を行ってそれらの測定値の標準偏差の3倍相当として求める。	分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果(検出下限値以上または検出下限未満での検出下限の値)は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。
3回の併行のために下記は1~3回で概略同様であり、1回目を記入する。ただし、試料の指示値については、3回分を記入する。	
<分析開始日等>	
分析開始月日	コンボボックスより選択。
分析終了月日	コンボボックスより選択。
<分析方法等>	
分析方法	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
配布試料を希釈した水	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
使用した水	コンボボックスより選択。
<前処理>	
試料量(分析用試料の分取量)	数値(半角)入力。単位:mL。
準備操作(前処理)	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
前処理後の溶液(定容量)量	数値(半角)入力。単位:mL。
<溶媒抽出等>	
準備操作(溶媒抽出等)	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
前処理後の溶液の分取量(溶媒抽出)	数値(半角)入力。単位:mL。
溶媒の種類	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
キレートの種類	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
抽出回数	数値(半角)入力。単位:回。
溶媒の使用量	数値(半角)入力。単位:mL/回。
(イオン交換樹脂カラム)種類	具体的に記入。
(キレート樹脂を用いた固相抽出)樹脂種類1	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
種類2	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
メーカー	具体的に記入。
型式	具体的に記入。

試料液のpH調節	数値(半角)入力。
試料液の流下方法	コンボボックスより選択。
流速	数値(半角)入力。単位：mL/分。
溶出種類	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
濃度	数値(半角)入力。単位：mol/mL。
量	数値(半角)入力。単位：mL/回。
回数	数値(半角)入力。単位：回。
最終の定容量	数値(半角)入力。単位：mL。
最終溶液(試験溶液)の液性	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
<原子吸光法>	
試験溶液の希釈 希釈倍率	数値(半角)入力。希釈しない場合は「1」。
電気加熱法 注入量	数値(半角)入力。単位：μL。
注入の方法	コンボボックスより選択。
原子化の方法	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
モスファイアの添加	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
原子吸光分析装置	
バックグラウンド補正	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
測定波長	数値(半角)入力。単位：nm。
<ICP発光分光分析法>	
ろ過等の操作	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
試験溶液の希釈 希釈倍率	数値(半角)入力。希釈しない場合は「1」。
ICP発光分光分析装置	
メーカー	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
型式	()は具体的に記入。
製造年(又は導入年)	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
スペクトル干渉の低減又は補正	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
発光部(光観測方式)	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
分光部	コンボボックスより選択。
検出部	数値(半角)入力。単位：時間。
バックグラウンド補正	数値(半角)入力。単位：nm。
超音波ネブライザーの使用	コンボボックスより選択。
スプレーチャンバーの材質	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
測定時間	数値(半角)入力。単位：時間。
測定波長	数値(半角)入力。単位：nm。
装置メモリー低減対策の実施状況	コンボボックスより選択。
(バックグラウンド低減対策)低減方法	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
<ICP質量分析法>	
ろ過等の操作	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
試験溶液の希釈倍率	数値(半角)入力。希釈しない場合は「1」。
ICP質量分析装置	
メーカー	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
型式	()は具体的に記入。
製造年(又は導入年)	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
スペクトル干渉の低減又は補正	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
質量分析計	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
コリジョン・リアクションセル	コンボボックスより選択。
補正式による補正	補正式による補正を行った場合には、補正前と補正後の指示値について「イオンカウント値」等、数値(半角)入力。 コンボボックスより選択。「2. 行う」を選んだ場合には、具体的に記入。
その他	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
超音波ネブライザーの使用	コンボボックスより選択。
積分時間(質量数毎)	数値(半角)入力。単位：秒。
質量数	数値(半角)入力。
<検量線の作成等>	
定量方法 方法	コンボボックスより選択。

内標準法：内標準物質の種類	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
検量線 作成点数	数値(半角)入力。整数。
作成範囲	数値(半角)入力。分析装置で測定する溶液中の濃度(mg/L)を記入。「ゼロ(0)」は含めない。
最高濃度の指示値	数値(半角)入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ単位で記入。
試料の指示値	
対象物質	数値(半角)入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。3回分を記入。
内標準物質	数値(半角)入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。3回分を記入。
空試験の指示値	数値(半角)入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。
装置検出下限値(IDL)	数値(半角)入力。単位：mg/L。
IDLの算出方法	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
分析法検出下限値(MDL)	数値(半角)入力。単位：mg/L。
MDLの算出方法	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
試料の保存状況	
保存状況	
保存方法等	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
保存時間	数値(半角)入力。単位：時間。
保存温度	数値(半角)入力。単位℃。
分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	150文字以内で簡潔に記入する。
計算式	150文字以内で簡潔に記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記入する。

4-5 分析結果報告書 [5] マンガン

模擬排水試料に関する分析結果報告書 [5] の入力方法の詳細を記します。

表4-5 模擬排水試料 (マンガン) (分析結果報告書 [5])

<分析結果>	
分析結果	数値(半角)入力。測定回数3回の結果を記入。 単位：mg/L。試料1Lあたりのmgとして記入。 「分析を実施した」場合には、「検出下限値以上」又は「検出下限未満での検出下限の値」欄のうち該当する一方に記入。測定回数3回の結果を記入。
・分析結果(検出下限値以上) ・分析結果(検出下限値未満の場合：検出下限値)	検出下限値以上では、JIS Z 8401によって数値を丸めて分析結果を有効数字3桁で記入。 検出下限値未満では、 <u>検出下限値を有効数字1桁</u> で記入。
(注)検出下限：例えば、空試験を行ってそれらの測定値の標準偏差の3倍相当として求める。	分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果(検出下限値以上または検出下限未満での検出下限の値)は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。
3回の併行のために下記は1~3回で概略同様であり、1回目を記入する。ただし、試料の指示値については、3回分を記入する。	
<分析開始日等>	
分析開始月日	コンボボックスより選択。
分析終了月日	コンボボックスより選択。
<分析方法等>	
分析方法	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
配布試料を希釈した水	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
使用した水	コンボボックスより選択。
<前処理>	
試料量(分析用試料の分取量)	数値(半角)入力。単位：mL。
準備操作(前処理)	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。

前処理後の溶液（定容量）量	数値(半角)入力。単位：mL。
<溶媒抽出等>	
準備操作（溶媒抽出等） 前処理後の溶液の分取量 （溶媒抽出） 溶媒の種類 キレートの種類 抽出回数 溶媒の使用量 （イオン交換樹脂カラム） 種類 （キレート樹脂を用いた固相抽出） 樹脂 種類 1 種類 2 メーカー 型式 試料液のpH調節 試料液の流下 方法 流速 溶出 種類 濃度 量 回数 最終の定容量 最終溶液（試験溶液）の液性	コンボボックスより選択。（ ）は具体的に記入。 数値(半角)入力。単位：mL。 コンボボックスより選択。（ ）は具体的に記入。 コンボボックスより選択。（ ）は具体的に記入。 数値(半角)入力。単位：回。 数値(半角)入力。単位：mL/回。 具体的に記入。 コンボボックスより選択。（ ）は具体的に記入。 コンボボックスより選択。（ ）は具体的に記入。 具体的に記入。 具体的に記入。 数値(半角)入力。 コンボボックスより選択。 数値(半角)入力。単位：mL/分。 コンボボックスより選択。（ ）は具体的に記入。 数値(半角)入力。単位：mol/mL。 数値(半角)入力。単位：mL/回。 数値(半角)入力。単位：回。 数値(半角)入力。単位：mL。 コンボボックスより選択。（ ）は具体的に記入。
<原子吸光法>	
試験溶液の希釈 希釈倍率 電気加熱法 注入量 注入の方法 原子化の方法 モデファイアの添加 原子吸光分析装置 バックグラウンド補正 測定波長	数値(半角)入力。希釈しない場合は「1」。 数値(半角)入力。単位：μL。 コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。（ ）は具体的に記入。 コンボボックスより選択。（ ）は具体的に記入。 コンボボックスより選択。（ ）は具体的に記入。 数値(半角)入力。単位：nm。
<ICP 発光分光分析法>	
ろ過等の操作 試験溶液の希釈 希釈倍率 ICP 発光分光分析装置 メーカー 型式 製造年（又は導入年） スペクトル干渉の低減又は補正 発光部（光観測方式） 分光部 検出部 バックグラウンド補正 超音波ネブライザーの使用 スプレーチャンバーの材質 測定時間 測定波長 装置メモリー低減対策の実施状況 （バックグラウンド低減対策）低減方法	コンボボックスより選択。（ ）は具体的に記入。 数値(半角)入力。希釈しない場合は「1」。 コンボボックスより選択。（ ）は具体的に記入。 （ ）は具体的に記入。 コンボボックスより選択。（ ）は具体的に記入。 コンボボックスより選択。（ ）は具体的に記入。 コンボボックスより選択。 数値(半角)入力。単位：時間。 数値(半角)入力。単位：nm。 コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。（ ）は具体的に記入。 数値(半角)入力。単位：時間。 数値(半角)入力。単位：nm。 コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。（ ）は具体的に記入。
<ICP質量分析法>	
ろ過等の操作 試験溶液の希釈倍率 ICP質量分析装置	コンボボックスより選択。（ ）は具体的に記入。 数値(半角)入力。希釈しない場合は「1」。

メーカー 型式 製造年（又は導入年） スペクトル干渉の低減又は補正 質量分析計 コリジョン・リアクションセル 補正式による補正 その他 超音波ネブライザーの使用 積分時間（質量数毎） 質量数	コンボボックスより選択。（ ）は具体的に記入。 （ ）は具体的に記入。 コンボボックスより選択。（ ）は具体的に記入。 コンボボックスより選択。（ ）は具体的に記入。 コンボボックスより選択。（ ）は具体的に記入。 コンボボックスより選択。 補正式による補正を行った場合には、補正前と補正後の指示値について「イオンカウント値」等、数値（半角）入力。 コンボボックスより選択。「2. 行う」を選んだ場合には、具体的に記入。 コンボボックスより選択。（ ）は具体的に記入。 コンボボックスより選択。 数値（半角）入力。単位：秒。 数値（半角）入力。
＜検量線の作成等＞	
定量方法 方法 内標準法：内標準物質の種類 検量線 作成点数 作成範囲 最高濃度の指示値 試料の指示値 対象物質 内標準物質 空試験の指示値 装置検出下限値（IDL） IDLの算出方法 分析法検出下限値（MDL） MDLの算出方法	コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。（ ）は具体的に記入。 数値（半角）入力。整数。 数値（半角）入力。分析装置で測定する溶液中の濃度（mg/L）を記入。「ゼロ（0）」は含めない。 数値（半角）入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ単位で記入。 数値（半角）入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。3回分を記入。 数値（半角）入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。3回分を記入。 数値（半角）入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。 数値（半角）入力。単位：mg/L。 コンボボックスより選択。（ ）は具体的に記入。 数値（半角）入力。単位：mg/L。 コンボボックスより選択。（ ）は具体的に記入。
試料の保存状況	
保存状況 保存方法等 保存時間 保存温度	コンボボックスより選択。（ ）は具体的に記入。 数値（半角）入力。単位：時間。 数値（半角）入力。単位℃。
分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	150文字以内で簡潔に記入する。
計算式	150文字以内で簡潔に記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記入する。

4-6 分析結果報告書〔6〕総水銀

模擬排水試料に関する分析結果報告書〔6〕の入力方法の詳細を記します。

表4-6 模擬排水試料（総水銀）（分析結果報告書〔6〕）

＜分析結果＞	
分析結果	数値（半角）入力。測定回数3回の結果を記入。 単位：mg/L。試料1Lあたりのmgとして記入。 「分析を実施した」場合には、「検出下限値以上」又は「検出下限未満での検出下限の値」欄のうち該当する一方に記入。測定回数3回の結果を記入。
・分析結果（検出下限値以上） ・分析結果（検出下限値未満の場合）	検出下限値以上では、JIS Z 8401によって数値を丸めて分析結果を有効数字3桁で記入。 検出下限値未満では、検出下限値を有効数字1桁で記入。

合：検出下限値)	
(注)検出下限：例えば、空試験を行ってそれらの測定値の標準偏差の3倍相当として求める。	分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果(検出下限値以上または検出下限未満での検出下限の値)は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。
3回の併行のために下記は1～3回	で概略同様であり、1回目を記入する。ただし、試料の指示値については、3回分を記入する。
<分析開始日等>	
分析開始月日	コンボボックスより選択。
分析終了月日	コンボボックスより選択。
<分析方法等>	
分析方法	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
配布試料を希釈した水	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
使用した水	コンボボックスより選択。
<前処理>	
試料量(分析用試料の分取量)	数値(半角)入力。単位：mL。
準備操作(前処理)	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
前処理後の溶液(定容量)量	数値(半角)入力。単位：mL。
<試験溶液の調製>	
試料量(分析用試料の分取量)	()は具体的に記入。
前処理 試薬の添加	()は具体的に記入。
加熱 方法	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
概略温度	()は具体的に記入。
過剰の過マンガン酸カリウムの分解	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
前処理後の溶液(定容量)	数値(半角)入力。単位：mL。
<測定>	
試料溶液の分取量	数値(半角)入力。単位：mL。
方式	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
<検量線の作成等>	
定量方法 方法	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
内標準法：内標準物質の種類	()は具体的に記入。
検量線 作成点数	数値(半角)入力。整数。
作成範囲	数値(半角)入力。分析装置で測定する溶液中の濃度(mg/L)を記入。「ゼロ(0)」は含めない。
最高濃度の指示値	数値(半角)入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ単位で記入。
検量線作成用標準液の作成方法	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
試料の指示値	数値(半角)入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。3回分を記入。
空試験の指示値	数値(半角)入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。3回分を記入。
装置検出下限値(IDL)	数値(半角)入力。単位：mg/L。
IDLの算出方法	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
分析法検出下限値(MDL)	数値(半角)入力。単位：mg/L。
MDLの算出方法	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
試料の保存状況	
保存状況	
保存方法等	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
保存時間	数値(半角)入力。単位：時間。
保存温度	数値(半角)入力。単位℃。
分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	150文字以内で簡潔に記入する。
計算式	150文字以内で簡潔に記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記入する。

4-7 分析結果報告書 [7] アルキル水銀

模擬排水試料に関する分析結果報告書 [7] の入力方法の詳細を記します。

表4-7 模擬排水試料 (アルキル水銀) (分析結果報告書 [7])

<分析結果>	
分析結果	数値 (半角) 入力。測定回数 3 回の結果を記入。 単位: mg/L。試料 1 L あたりの mg として記入。 「分析を実施した」場合には、「検出下限値以上」又は「検出下限未満での検出下限の値」欄のうち該当する一方に記入。測定回数 3 回の結果を記入。
・分析結果 (検出下限値以上) ・分析結果 (検出下限値未満の場合: 検出下限値)	検出下限値以上では、JIS Z 8401 によって数値を丸めて分析結果を有効数字 3 桁で記入。 検出下限値未満では、検出下限値を有効数字 1 桁で記入。
(注) 検出下限: 例えば、空試験を行ってそれらの測定値の標準偏差の 3 倍相当として求める。	分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果 (検出下限値以上または検出下限未満での検出下限の値) は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。
3 回の併行のために下記は 1 ~ 3 回で概略同様であり、1 回目を記入する。ただし、試料の指示値については、3 回分を記入する。	
<分析開始日等>	
分析開始月日	コンボボックスより選択。
分析終了月日	コンボボックスより選択。
<分析方法等>	
分析方法	コンボボックスより選択。() は具体的に記入。
配布試料を希釈した水	コンボボックスより選択。() は具体的に記入。
使用した水	コンボボックスより選択。
<ガスクロマトグラフ (ECD) 法>	
抽出に用いた試料量 (mL)	数値 (半角) 入力。単位: mL。
中和操作の有無 (中和操作「有」の場合)	コンボボックスより選択。
用いた酸もしくはアルカリ 塩酸の添加 (塩酸の添加「有」の場合)	コンボボックスより選択。
添加した塩酸の濃度と量	() は具体的に記入。
硫黄に対する処理	コンボボックスより選択。() は具体的に記入。
抽出操作 実施の有無	コンボボックスより選択。
(1回目) 使用した溶媒	コンボボックスより選択。() は具体的に記入。
(2回目) 使用した溶媒	コンボボックスより選択。() は具体的に記入。
(3回目) 使用した溶媒	コンボボックスより選択。() は具体的に記入。
(4回目以降) 使用した溶媒 使用量	() は具体的に記入。 () は具体的に記入。
抽出以外の前処理	コンボボックスより選択。
前処理後の溶液 (定容量)	() は具体的に記入。
カラム	コンボボックスより選択。() は具体的に記入。
<フェニル化処理/キャピラリーガスクロマトグラフ質量分析法>	
抽出に用いた試料量 (mL)	() は具体的に記入。
中和操作の有無 (中和操作「有」の場合)	コンボボックスより選択。
用いた酸もしくはアルカリ テトラフェニル化酸の添加 「有」の場合	コンボボックスより選択。() は具体的に記入。
濃度	() は具体的に記入。
量	() は具体的に記入。

攪拌時間 トルエンの添加量 ヘキサン添加量 GC/MS カラム 定量用イオン(m/z) メチル水銀 エチル水銀 2,4,6-トリクロロアニソール-d ₃ (内標準) フェナントレン-d ₁₀ 確認用イオン(m/z) メチル水銀 エチル水銀 2,4,6-トリクロロアニソール-d ₃ (内標準)	()は具体的に記入。 ()は具体的に記入。 ()は具体的に記入。 ()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
<測定>	
試料溶液の分取量 方式	数値(半角)入力。単位：mL。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
<検量線の作成等(メチル水銀)>	
定量方法 方法 内標準法：内標準物質の種類 検量線 作成点数 作成範囲 最高濃度の指示値 検量線作成用標準液の作成方法 試料の指示値 空試験の指示値 装置検出下限値(IDL) IDLの算出方法 分析法検出下限値(MDL) MDLの算出方法	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 ()は具体的に記入。 数値(半角)入力。整数。 数値(半角)入力。分析装置で測定する溶液中の濃度(mg/L)を記入。 「ゼロ(0)」は含めない。 数値(半角)入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ単位で記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 数値(半角)入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。3回分を記入。 数値(半角)入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。3回分を記入。 数値(半角)入力。単位：mg/L。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 数値(半角)入力。単位：mg/L。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
<検量線の作成等(エチル水銀)>	
定量方法 方法 内標準法：内標準物質の種類 検量線 作成点数 作成範囲 最高濃度の指示値 検量線作成用標準液の作成方法 試料の指示値 空試験の指示値 装置検出下限値(IDL) IDLの算出方法 分析法検出下限値(MDL) MDLの算出方法	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 ()は具体的に記入。 数値(半角)入力。整数。 数値(半角)入力。分析装置で測定する溶液中の濃度(mg/L)を記入。 「ゼロ(0)」は含めない。 数値(半角)入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ単位で記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 数値(半角)入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。3回分を記入。 数値(半角)入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。3回分を記入。 数値(半角)入力。単位：mg/L。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 数値(半角)入力。単位：mg/L。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
<試料の保存状況>	
保存状況 保存方法等 保存時間 保存温度	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 数値(半角)入力。単位：時間。 数値(半角)入力。単位：℃。

分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	150文字以内で簡潔に記入する。
計算式	150文字以内で簡潔に記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記入する。

4-8 分析結果報告書 [8] 全リン

模擬排水試料に関する分析結果報告書 [8] の入力方法の詳細を記します。

表4-8 模擬排水試料 (全リン) (分析結果報告書 [8])

<分析結果>	
分析結果	数値(半角)入力。測定回数3回の結果を記入。 単位: mg/L。試料1Lあたりのmgとして記入。 「分析を実施した」場合には、「検出下限値以上」又は「検出下限未満での検出下限の値」欄のうち該当する一方に記入。測定回数3回の結果を記入。
・分析結果(検出下限値以上) ・分析結果(検出下限値未満の場合: 検出下限値)	検出下限値以上では、JIS Z 8401によって数値を丸めて分析結果を有効数字3桁で記入。 検出下限値未満では、検出下限値を有効数字1桁で記入。
(注)検出下限: 例えば、空試験を行ってそれらの測定値の標準偏差の3倍相当として求める。	分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果(検出下限値以上または検出下限未満での検出下限の値)は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。
3回の併行のために下記は1~3回で概略同様であり、1回目を記入する。ただし、試料の指示値については、3回分を記入する。	
<分析開始日等>	
分析開始月日	コンボボックスより選択。
分析終了月日	コンボボックスより選択。
<分析方法等>	
分析方法	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
配布試料を希釈した水	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
使用した水	コンボボックスより選択。
<ペルオキシ二硫酸カリウム分解法>	
試料量(分析用試料)の希釈濃縮	数値(半角)入力。希釈しない場合は「1」。 数値(半角)入力。濃縮しない場合は「1」。
試料(又は希釈・濃縮した試料)量	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
ペルオキシ二硫酸カリウム溶液の添加量	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
分解瓶の種類	コンボボックスより選択。
容量	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
加熱分解 温度	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
時間	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
加熱分解後の溶液の分取量	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
モリブデン青の溶媒抽出	コンボボックスより選択。
2. の場合	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
吸光セルの光路長	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
測定波長	数値(半角)入力。単位: nm。
<試験溶液の調製>	
試料量(分析用試料の分取量)	()は具体的に記入。
前処理 試薬の添加	()は具体的に記入。
加熱 方法	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
概略温度	()は具体的に記入。
過剰の過マンガン酸カリウムの分解	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
前処理後の溶液(定容量)	数値(半角)入力。単位: mL。
<測定>	
試料溶液の分取量	数値(半角)入力。単位: mL。
方式	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。

＜検量線の作成等＞	
定量方法 方法 内標準法：内標準物質の種類 検量線 作成点数 作成範囲 最高濃度の指示値	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 ()は具体的に記入。 数値(半角)入力。整数。 数値(半角)入力。分析装置で測定する溶液中の濃度(mg/L)を記入。 「ゼロ(0)」は含めない。 数値(半角)入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ単位で記入。
検量線作成用標準液の作成方法 試料の指示値	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 数値(半角)入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。3 回分を記入。
空試験の指示値	数値(半角)入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。3 回分を記入。
装置検出下限値(IDL) IDLの算出方法	数値(半角)入力。単位：mg/L。
分析法検出下限値(MDL) MDLの算出方法	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 数値(半角)入力。単位：mg/L。
試料の保存状況 保存状況 保存方法等 保存時間 保存温度	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 数値(半角)入力。単位：時間。 数値(半角)入力。単位℃。
分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	150文字以内で簡潔に記入する。
計算式	150文字以内で簡潔に記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記入する。

有害大気汚染物質

模擬大気試料に関する分析結果報告書[9]の入力方法の詳細を記します。

表4-5 模擬大気試料(1,2-ジクロロメタン、ベンゼン、トルエン、トリクロエチレン、ジクロロメタン及び参照項目7項目)(分析結果報告書[9])

＜分析結果＞	
測定回数	1～5の数値(半角)入力。
分析の実施 分析結果 「検出値」、または「定量下限値未満だった場合：定量下限値を記入」	分析を実施した項目については、コンボボックスより「1. 実施」を選択し、「検出値」又は「定量下限値未満だった場合：定量下限値を記入」のうち該当する一方に単位 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ として、数値(半角)で入力。 分析を実施しない項目については、「2. 実施せず」を選択。 「検出値」では、JIS Z 8401によって数値を丸めて分析結果を有効数字3桁で記入。 「定量下限値未満だった場合：定量下限値を記入」では、定量下限値を有効数字1桁で記入。
(注)定量下限値：例えば、空試験を行ってそれらの測定値の標準偏差の3倍相当として求める。	分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果(検出下限値未満だった場合：定量下限値)」は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。
＜分析方法等＞	

分析開始月日	コンボボックスより選択。分析開始日は分析(前処理操作を含む)を開始した日。
分析終了月日	分析終了日は定量操作を完了した日。
分析方法	容器採取-ガスクロマトグラフ質量分析方法
分析時の平均室温。	数値(半角)入力。単位:℃。
<試料採取容器(キャニスター)の洗浄等>	
キャニスターの型式	コンボボックスより選択。「4.その他」は()は具体的に記入。
キャニスターの洗浄装置	コンボボックスより選択。「5.その他」は()は具体的に記入。
キャニスター洗浄条件	コンボボックスより選択。「3.その他」は()は具体的な回数を半角数で記入。
洗浄最終回の洗浄最終回までの減圧時の到達真空度	数値(半角)入力。単位:Pa。
加圧時の到達圧力	数値(半角)入力。単位:kPa。
キャニスターブランク試験	コンボボックスより選択。
減圧・加温ゼロガス導入条件	コンボボックスより選択。「1.実施する」を選択の場合、「減圧時の圧力」を数値(半角)入力の上で、圧力単位をコンボボックスより選択する。「3.その他」は具体的に記入。
GC/MSによる確認	コンボボックスより選択。
採取容器の減圧(最終の減圧)	「1.実施する」を選択の場合、「減圧時の圧力」を数値(半角)入力の上で、圧力単位をコンボボックスより選択する。「3.その他」は具体的に記入。
<試料の濃縮>	
キャニスターの準備	
受け取り時のキャニスターの圧力	単位:kPaで数値(半角)入力。
希釈操作	コンボボックスより選択。「3.その他の希釈」を選択の場合、具体的に記入。
希釈倍率	数値(半角)で記入。
キャニスター濃縮装置	コンボボックスより選択。「7.その他」は()は具体的に記入。
試料量	数値(半角)入力。単位:mL。
除湿方式	コンボボックスより選択。「4.その他」は()は具体的に記入。
クライオフォーカス部の脱着温度	数値(半角)入力。単位:℃。
ページガス	コンボボックスより選択。「3.その他」は()は具体的に記入。
<GC/MS>	
GC形式	コンボボックスより選択。「16.その他」は製造メーカー及びGC名を具体的に記入。
MS型式	コンボボックスより選択。「20.その他」は()は製造メーカー及びMS名を具体的に記入。
装置型式	コンボボックスより選択。「6.その他」は()は製造メーカー及びGC名を具体的に記入。
イオン検出法	コンボボックスより選択。「4.その他」は()は具体的に記入。
カラム 型式	コンボボックスより選択。「12.その他」は()は具体的に記入。
内径	単位はmmで数値(半角)入力。
長さ	単位はmで数値(半角)入力。
膜厚	単位はμmで数値(半角)入力。
初期	数値(半角)入力。温度の単位:℃、温度保持の単位:分で昇温条件
1回目の昇温	数値(半角)入力。速度の単位:℃/分。到達温度:℃。温度保持:分。
2~5回目の昇温	「2回目~5回目の昇温」も1回目の昇温と同様に入力。
5回以上の昇温	同様に入力の上で、回数を数値(半角)で入力。

キャリヤガス条件 種類 制御モード 流量 圧力	コンボボックスより選択。「その他」は()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。 数値(半角)入力。単位はコンボボックスより選択。 数値(半角)入力。単位はコンボボックスより選択。「3.その他」は()は具体的に記入。
<定量用質量数及び確認用質量数>	
1,2-ジクロロメタン、ベンゼン、トルエン、トリクロエチレン、ジクロロメタン	すべての物質において定量用質量数及び確認用質量数を数値(半角)入力。
<標準ガス>	
調整方法 標準ガス 区分 購入：メーカー名 標準原ガス 購入(又は調整)後の経過月 標準ガス 調整から経過月	コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。「4.その他」は()は具体的に記入。 数値(半角)入力。単位:月。 コンボボックスより選択。
<内標準ガス>	
標準ガス 区分 購入：メーカー名 標準原ガス 購入(又は調整)後の経過月 標準ガス 調整から経過月	コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。「4.その他」は()は具体的に記入。 数値(半角)入力。単位:月。 コンボボックスより選択
検出下限	
1,2-ジクロロメタン、ベンゼン、トルエン、トリクロエチレン、ジクロロメタン	検出下限値、定量下限値共に半角(数値)入力。単位は $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 。
<検量線の作成等>	
定量方法 内標準法:内標準物質の種類 内標準法:内標準物質の添加量	コンボボックスより選択。「4.その他」は具体的に記入。 コンボボックスより選択。「4.その他」は具体的に記入。 数値(半角)で入力。単位は濃度は pptv、濃縮量は mL。
1,2-ジクロロエタン 標準ガス濃度レベル 濃縮量を変えて設けた検量点数 検量線調製濃度範囲 最小濃度指示値(平均) 最大濃度指示値(平均)	数値(半角)で入力。 数値(半角)で入力。 作成範囲：最小及び最大を数値(半角)で入力。単位は pptv。 数値(半角)で入力。 数値(半角)で入力。
試料	測定回数に応じ、数値(半角)で入力。検量線の最小濃度及び最大濃度指示値と同じ単位を用いる。
空試験	検量線の最小濃度、最大濃度、試料の指示値と同じ単位を用いて数値(半角)で入力。
ベンゼン、トルエン、トリクロエチレン、ジクロロメタンも「1,2-ジクロロメタン」と同様に記入。	
分析実施にあたって留意した点及び問題と感じた点	
150字以内で簡潔に記入する事。	
計算式	
150字以内で記入する。原則として、分析条件に記載している用語を用いて記入する。記入例は****を参照する。	

4-10 分析結果報告書 [10] PCB (詳細項目)

底質試料に関する分析結果報告書 [10] の入力方法の詳細を記します。

表4-10 底質試料 (PCB) (分析結果報告書 [10])

測定回数	1～5の整数(半角)入力。分析用試料のはかり取りからGC/MSの測定までの一連の操作を行った回数(併行測定の回数)を記入。
分析結果	実施要領 5 (2)の分析結果の表示方法に従って、底質試料1 kgあたりの μg (単位: $\mu\text{g}/\text{kg}$)。数値(半角)入力。 測定回数分の分析結果を記入。例えば、1回測定の場合には、「1回目の分析結果」欄に記入し、「2～5回目の分析結果」欄は記入しない。
分析結果 (乾燥減量)	有効数字3桁で記入 (単位: %)。
分析方法等	
分析開始月日	分析開始日は分析(前処理操作を含む)を開始した日。
分析終了月日	分析終了日は定量操作を完了した日。
分析方法	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
アルカリ分解、抽出	
試料のはかり取り量	数値(半角)入力。単位: g。
アルカリ分解	コンボボックスより選択。
アルカリ (1 mol/L水酸化カリウムのエタノール溶液) の使用量	()は具体的に記入。
分解 温度	()は具体的に記入。
時間	()は具体的に記入。
ろ過に使用したろ紙の種類	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
アルカリ分解以外の抽出方法	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
クリーンアップ	
硫酸処理	コンボボックスより選択。
硫酸処理の回数	()は具体的に記入。
硫酸処理後の濃縮	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
アセトリル・ヘキサン分配	コンボボックスより選択。
アセトリル・ヘキサン分配後の濃縮	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
カラムクロマトグラフィー	コンボボックスより選択。
カラムクロマトグラムの種類数	コンボボックスより選択。
充填剤及び溶出溶媒の種類と量	()は具体的に記入。
硫黄分除去処理	コンボボックスより選択。
方法	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
その他の処理	
方法	()は具体的に記入。
シリジス [®] イク 添加	コンボボックスより選択。
添加物質	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
分析用試料 溶媒の種類	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
試料液量	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
分析条件 1	
(2方法の分析結果の報告を可能としている。2つ目の方法による分析結果を報告する場合には、1つ目の方法による分析結果を1/20～10/20に、2つ目の方法による分析結果を11/20～20/20に記入する。)	

対応物質 1～10 塩素化物	(対応物質ごとに1～10に記入する) チェックボックスにチェック。分析対象とした塩素化物を選択。
パッド ^{カラム} カラム材質 担体 液相 内径 長さ	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 ()は具体的に記入。 ()は具体的に記入。
キャピラリー ^{カラム} 液相	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
昇温条件 初期 1回目の昇温 2回目の昇温 3回目の昇温 4回目の昇温 5回目の昇温 (5回以上の昇温の場合) 昇温回数。	()は具体的に記入。 ()は具体的に記入。 ()は具体的に記入。 ()は具体的に記入。 ()は具体的に記入。 ()は具体的に記入。 ()は具体的に記入。
注入 量 注入温度 注入方式	()は具体的に記入。 ()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
キャリア ^{ガス} 種類 流量 圧力	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 ()は具体的に記入。 ()は具体的に記入。
ガスの種類 流量 検出器温度 メイクアップ ^{ガス} の種類 流量 圧力	コンボボックスより選択。 ()は具体的に記入。 ()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 ()は具体的に記入。 ()は具体的に記入。
MS 型式 装置型式 イオン ^{検出法} 測定時の分解能 イオン ^化 方法 電圧 電流 イオン ^源 温度	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 ()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 ()は具体的に記入。 ()は具体的に記入。 ()は具体的に記入。
分析条件 2, 3 (分析条件 1 を参照して記入する。)	
標準物質	
標準物質 (液) の種類 PCB (対象物質) サロゲート 種類 シリコン ^{スパイク} 種類 標準物質の製造メーカー PCB (対象物質) サロゲート シリコン ^{スパイク} 検量線作成用標準液 標準液の調製からの経過月	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。

PCB (対象物質) サロゲート シリンジスパイク 希釈溶媒 保管期間 サロゲート 調製溶媒 サロゲート 調製溶媒	()は具体的に記入。 ()は具体的に記入。 ()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
検量線の作成	
検量線 作成方法 (定量法) 作成点数 作成範囲濃度 繰り返し数 1試料当たりサロゲート 濃度 添加量 1試料当たりシリンジスパイク 濃度 添加量 検量線作成用標準測定から試料測定終了までの装置性能評価 感度変動評価方法 評価結果 保持時間変動 評価方法 評価結果 クロマトグラム評価 ピーク形状 ベースライン 妨害ピーク	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 数値 (半角) 入力。整数。 数値 (半角) 入力。GCに注入する標準液の濃度($\mu\text{g/mL}$)を記入。「ゼロ(0)」は含めず、異性体で異なる場合には最小値を記入。 数値 (半角) 入力。整数。 ()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。
内標準物質 (サロゲート及びシリンジスパイク) の添加量と回収率	
内標準物質 サロゲート 添加量 回収率 シリンジスパイク その他	(該当する物質について記入する。) 数値(半角)入力。単位:ng。 数値(半角)入力。単位:%。 数値(半角)入力。単位:ng。 ()は具体的に記入。
空試験値及び感度係数	
空試験値 相対感度係数(RF)	数値 (半角) 入力。試料中の濃度($\mu\text{g/kg}$)に換算した値 で記入(分析結果と同じ単位とする)。空試験値が検出されない場合には記入しない(空欄とする)。 数値 (半角) 入力。2つのモーターイオン(質量数)では平均値を記入。
測定質量数 (四重極MSの場合) および (高分解能MSの場合)	

質量数	各塩素化物ごとに2つまでを選択（定量に用いた質量数を選択）。質量数の表記は、記載しているマニュアル等により異なっていることもあり、質量数0.01以下ではそのことを考慮して選択する（近い質量数を選択する）。「その他」を選んだ場合には、数値（半角）で具体的に記入。
分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	150文字以内で簡潔に記入する。

4-11 分析結果報告書 [11] 総水銀（参照項目）

底質試料に関する分析結果報告書 [11] の入力方法の詳細を記します。

表4-11 底質試料（総水銀）（（分析結果報告書 [11]））

<分析結果>	
分析結果	数値（半角）入力。測定回数3回の結果を記入。 単位：mgHg/kg。試料1kgあたりのmgとして記入。 「分析を実施した」場合には、「検出下限値以上」又は「検出下限未満の場合：検出下限値」欄のうち該当する一方に記入。測定回数3回の結果を記入。
・分析結果（検出下限値以上） ・分析結果（検出下限値未満の場合：検出下限値）	検出下限値以上では、JIS Z 8401によって数値を丸めて分析結果を有効数字3桁で記入。 検出下限値未満では、検出下限値を有効数字1桁で記入。
(注)検出下限：例えば、空試験を行ってそれらの測定値の標準偏差の3倍相当として求める。	分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果（検出下限値以上または検出下限未満での検出下限の値）は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。
3回の併行のために下記は1～3回で概略同様であり、1回目を記入する。ただし、試料の指示値については、3回分を記入する。	
<乾燥減量>	
乾燥減量	()は具体的に記入。単位は%
<分析開始日等>	
分析開始月日	コンボボックスより選択。
分析終了月日	コンボボックスより選択。
<分析方法等>	
分析方法	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
使用した水	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
試料量（分析用試料の分取量）	()は具体的に記入。単位はg。
準備操作（前処理）	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
アルカリ処理	コンボボックスより選択。
塩酸の添加	コンボボックスより選択。
添加した塩酸の濃度と量	()は具体的に記入。
硫黄に対する処理	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
抽出操作	
（一回目）	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
（二回目）	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
（三回目）	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
前処理後の溶液（定容量）	()は具体的に記入。
カラム	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
<検量線の作成等>	
定量方法 方法	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
内標準法：内標準物質の種類	()は具体的に記入。
検量線 作成点数	数値（半角）入力。整数。

作成範囲	数値（半角）入力。分析装置で測定する溶液中の量（ μ gHg）もしくは濃度（mgHg/L）を記入。「ゼロ（0）」は含めない。
最高濃度の指示値	数値（半角）入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ単位で記入。
検量線作成用標準液の作成方法	コンボボックスより選択。（ ）は具体的に記入。
試料の指示値	数値（半角）入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。3回分を記入。
空試験の指示値	数値（半角）入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。3回分を記入。
装置検出下限値（IDL）	数値（半角）入力。単位：mgHg/kg。
IDLの算出方法	コンボボックスより選択。（ ）は具体的に記入。
分析法検出下限値（MDL）	数値（半角）入力。単位：mgHg/kg。
MDLの算出方法	コンボボックスより選択。（ ）は具体的に記入。
試料の保存状況	
保存状況	
保存方法等	コンボボックスより選択。（ ）は具体的に記入。
保存時間	数値（半角）入力。単位：時間。
保存温度	数値（半角）入力。単位： $^{\circ}$ C。
分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	150文字以内で簡潔に記入する。
計算式	150文字以内で簡潔に記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記入する。

4-12 分析結果報告書 [12] アルキル水銀（参照項目）

底質試料に関する分析結果報告書 [12] の入力方法の詳細を記します。

この分析結果報告書には、底質調査測定マニュアルによる方法以外の方法の結果を記入する。なお、底質調査測定マニュアルによる方法については分析結果報告書 [7] に記入する。

表4-12 底質試料（ダイオキシン類）（「底質のダイオキシン類簡易測定法マニュアル」に規定する方法）（分析結果報告書 [12] ）

<分析結果>	
分析結果	数値（半角）入力。測定回数3回の結果を記入。 単位：mg/L。試料1Lあたりのmgとして記入。 「分析を実施した」場合には、「検出下限値以上」又は「検出下限未満での検出下限の値」欄のうち該当する一方に記入。測定回数3回の結果を記入。
・分析結果（検出下限値以上） ・分析結果（検出下限値未満の場合：検出下限値）	検出下限値以上では、JIS Z 8401によって数値を丸めて分析結果を有効数字3桁で記入。 検出下限値未満では、 <u>検出下限値を有効数字1桁</u> で記入。
(注) 検出下限：例えば、空試験を行ってそれらの測定値の標準偏差の3倍相当として求める。	分析結果は必須項目。確定する際に、値の入力が行われていない場合は、必須項目という条件で、「分析結果（検出下限値以上または検出下限未満での検出下限の値）は必須項目です。該当する値を入力して下さい。」というエラーメッセージが表示される。
3回の併行のために下記は1～3回で概略同様であり、1回目を記入する。ただし、試料の指示値については、3回分を記入する。	
<分析開始日等>	
分析開始月日	コンボボックスより選択。
分析終了月日	コンボボックスより選択。
<分析方法等>	
分析方法	コンボボックスより選択。（ ）は具体的に記入。
使用した水	コンボボックスより選択。（ ）は具体的に記入。
<ガスクロマトグラフ（ECD）法>	
抽出に用いた試料量（mL）	数値（半角）入力。単位：mL。
中和操作の有無	コンボボックスより選択。

<p>(中和操作「有」の場合) 用いた酸もしくはアルカリ 塩酸の添加 (塩酸の添加「有」の場合) 添加した塩酸の濃度と量 硫黄に対する処理 抽出操作 実施の有無 (1回目) 使用した溶媒 (2回目) 使用した溶媒 (3回目) 使用した溶媒 (4回目以降) 使用した溶媒 使用量 抽出以外の前処理 前処理後の溶液 (定容量) カラム</p>	<p>コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。 ()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 ()は具体的に記入。 ()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。 ()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。</p>
<フェニル化処理/キャピラリーガスクロマトグラフ質量分析法>	
<p>抽出に用いた試料量(mL) 中和操作の有無 (中和操作「有」の場合) 用いた酸もしくはアルカリ テトラフェニル矽酸の添加 「有」の場合 濃度 量 攪拌時間 トルエンの添加量 ヘキサン添加量 GC/MS カラム 定量用イオン(m/z) メチル水銀 エチル水銀 2,4,6-トリクロロアニール-d₃ (内標準) フェナントレン-d₁₀ 確認用イオン(m/z) メチル水銀 エチル水銀 2,4,6-トリクロロアニール-d₃ (内標準)</p>	<p>()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。 ()は具体的に記入。 ()は具体的に記入。 ()は具体的に記入。 ()は具体的に記入。 ()は具体的に記入。 ()は具体的に記入。 ()は具体的に記入。 ()は具体的に記入。 ()は具体的に記入。 ()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。</p>
<測定>	
<p>試料溶液の分取量 方式</p>	<p>数値(半角)入力。単位: mL。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。</p>
<検量線の作成等 (メチル水銀) >	
<p>定量方法 方法 内標準法: 内標準物質の種類 検量線 作成点数 作成範囲 最高濃度の指示値 検量線作成用標準液の作成方法 試料の指示値 空試験の指示値</p>	<p>コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 ()は具体的に記入。 数値(半角)入力。整数。 数値(半角)入力。分析装置で測定する溶液中の量(μgHg)もしくは濃度(mgHg/L)を記入。「ゼロ(0)」は含めない。 数値(半角)入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ単位で記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 数値(半角)入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。3回分を記入。 数値(半角)入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。3回分を記入。</p>

装置検出下限値 (IDL) IDLの算出方法 分析法検出下限値 (MDL) MDLの算出方法	数値 (半角) 入力。単位: mgHg/kg。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 数値 (半角) 入力。単位: mgHg/kg。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
< 検量線の作成等 (エチル水銀) >	
定量方法 方法 内標準法: 内標準物質の種類 検量線 作成点数 作成範囲 最高濃度の指示値 検量線作成用標準液の作成方法 試料の指示値 空試験の指示値 装置検出下限値 (IDL) IDLの算出方法 分析法検出下限値 (MDL) MDLの算出方法	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 ()は具体的に記入。 数値 (半角) 入力。整数。 数値 (半角) 入力。分析装置で測定する溶液中の量 (μ gHg) もしくは濃度(mgHg/L)を記入。「ゼロ(0)」は含めない。 数値 (半角) 入力。「試料の指示値」、「空試験の指示値」と同じ単位で記入。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 数値 (半角) 入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。3回分を記入。 数値 (半角) 入力。「検量線最高濃度の指示値」と同じ単位で記入。3回分を記入。 数値 (半角) 入力。単位: mgHg/kg。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 数値 (半角) 入力。単位: mgHg/kg。 コンボボックスより選択。()は具体的に記入。
< 試料の保存状況 >	
保存状況 保存方法等 保存時間 保存温度	コンボボックスより選択。()は具体的に記入。 数値 (半角) 入力。単位: 時間。 数値 (半角) 入力。単位: $^{\circ}$ C。
分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	150 文字以内で簡潔に記入する。
計算式	150 文字以内で簡潔に記入する。原則として、分析条件に記載されている用語を用いて記入する。

4-9 アンケート

○ホームページによる分析結果報告書の作成方法に関するアンケート

ホームページからの分析結果報告書の作成に関するアンケートについては、分析結果報告書メニュー（図4-9.1参照）の右の[アンケート]ボタンをクリックすると、アンケート内容が表示されます。

アンケートの内容は、試料ごと（3区分）になっています。

報告書一覧表				
	名称	入力状態	チャート状態	アンケート
<input checked="" type="radio"/>	報告書[1]模擬排水試料(カドミウム)	入力中	-	アンケート
<input type="radio"/>	報告書[2]模擬排水試料(鉛)	入力中	無し	
<input type="radio"/>	報告書[3]模擬排水試料(ヒ素)	入力中	無し	
<input type="radio"/>	報告書[4]模擬排水試料(鉄)	入力中	無し	
<input type="radio"/>	報告書[5]排水試料(マンガン)	入力中	無し	
<input type="radio"/>	報告書[6]模擬排水試料(総水銀)	入力中	無し	
<input type="radio"/>	報告書[7]模擬排水試料(アルキル水銀)	入力中	無し	
<input type="radio"/>	報告書[8]模擬排水試料(全リン)	入力中	無し	
<input type="radio"/>	報告書[9]模擬大気試料(有害大気汚染物質)	確定	無し	
<input type="radio"/>	報告書[10]底質試料(PCB)	確定	無し	
<input type="radio"/>	報告書[11]底質試料(総水銀:参照項目)	確定	無し	
<input type="radio"/>	報告書[12]底質試料(アルキル水銀:参照項目)	確定	無し	
調査に関するアンケート		調査に関するアンケート	入力済	アンケート

図 4-9.1 分析結果報告書の作成方法に関するアンケート

いずれの試料とも、質問はコンボボックスより選択します。「2」を選択した場合には（ ）内には具体的な理由又は内容を記入してください。「確定」等の操作は必要ありません。

分析結果報告書の作成時に感じた点等	1. 良い 2. 改良すべき点、問題点等がある 内容（ ）
-------------------	----------------------------------

○環境測定分析統一精度管理調査に関するアンケート

環境測定分析統一精度管理調査に関するアンケートについては、分析結果報告書メニュー(図4-9.2参照)の下部[調査に関するアンケート]ボタンをクリックすると、アンケート内容が表示されます。

質問はコンボボックスより選択し、()内には具体的に記入してください。

アンケートは、各機関ひとつの回答となります(試料ごとの回答ではありません)。

「入力状態」については、質問の回答途中では「入力中」、回答が済みましたら「入力済み」と表示されます。「確定」等の操作は必要ありません。

報告書一覧表				
	名称	入力状態	チャート状態	アンケート
<input checked="" type="radio"/>	報告書[1]模擬排水試料(カドミウム)	入力中	-	アンケート
<input type="radio"/>	報告書[2]模擬排水試料(鉛)	入力中	無し	
<input type="radio"/>	報告書[3]模擬排水試料(ヒ素)	入力中	無し	
<input type="radio"/>	報告書[4]模擬排水試料(鉄)	入力中	無し	
<input type="radio"/>	報告書[5]排水試料(マンガン)	入力中	無し	
<input type="radio"/>	報告書[6]模擬排水試料(総水銀)	入力中	無し	
<input type="radio"/>	報告書[7]模擬排水試料(アルキル水銀)	入力中	無し	
<input type="radio"/>	報告書[8]模擬排水試料(全リン)	入力中	無し	
<input type="radio"/>	報告書[9]模擬大気試料(有害大気汚染物質)	確定	無し	アンケート
<input type="radio"/>	報告書[10]底質試料(PCB)	確定	無し	アンケート
<input type="radio"/>	報告書[11]底質試料(総水銀:参照項目)	確定	無し	
<input type="radio"/>	報告書[12]底質試料(アルキル水銀:参照項目)	確定	無し	
調査に関するアンケート		調査に関するアンケート	入力済	

図 4-9.2 分析結果報告書の作成方法に関するアンケート

機関の区分 (ひとつを選択)	1. 地方公共団体 2. 民間分析機関 (公益法人を含む) 3. その他 ()
アンケート回答者の担当 業務の区分 (ひとつを選択)	1. 環境測定分析業務の担当者 2. 環境測定分析業務の管理者 3. 環境測定分析委託業務の担当者 (委託する側の担当者) 4. 環境測定分析委託業務の管理者 (委託する側の管理者) 5. その他 ()
内部精度管理の実施状況 (複数回答可)	1. 定期的・自主的な同一試料の二重測定、ブランク試験 2. 定期的な添加回収試験 3. 市販の標準試料の測定 4. 自前の濃度既知試料の測定 5. その他 ()

<p>調査に参加する目的 (複数回答可)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 信頼性の確保、精度の確認等 2. 分析方法・分析技術・分析機器の確認・改善等 3. 外部精度管理として (入札に対応) 4. 外部精度管理として (ISOに対応等) 5. 他機関との比較・情報交換 6. 職員の教育等 7. その他 ()
<p>調査の効果 (ひとつを選択)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精度の確認が出きた (できる) 2. 分析技術の再確認、向上が出きた (できる) 3. 分析者の意識の向上、レベルアップとなった (なる) 4. 問題点の検討、課題の確認が出きた (できる) 5. 他の機関の動向を知る、また比較が出きた (できる) 6. 顧客の信頼とPRになった (なる) (入札資格取得に利用等) 7. その他 ()
<p>これからの調査の必要性、あり方 (ひとつを選択)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. このままの調査方法で継続する 2. 改善等を行った方がよい。(改善点等 :) 3. その他 ()
<p>その他 (自由記載)</p>	<p>本調査に関する希望する事項があれば記入してください。 ()</p>